

コンクリート技術の要点'19 正誤表

「コンクリート技術の要点'19」の記述につきまして、下表のとおり訂正いたします。

2020年4月17日

コンクリート技術講習委員会

55 頁 [章末問題 2-9] : 選択肢の表がない																									
誤	正																								
<p>上水道水以外の水をレディーミクストコンクリートに用いるため、JIS A 5308 附属書 C(レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水)により試験した結果、それぞれ以下の値を得た。 レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水として適当なものは(1)～(4)のどれか。 ただし、セメントの凝結時間の差およびモルタルの圧縮強さの比についてはすべて適合する試験結果が得られているものとする。</p>	<p>上水道水以外の水をレディーミクストコンクリートに用いるため、JIS A 5308 附属書 C(レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水)により試験した結果、それぞれ以下の値を得た。 レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水として適当なものは(1)～(4)のどれか。 ただし、セメントの凝結時間の差およびモルタルの圧縮強さの比についてはすべて適合する試験結果が得られているものとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">品質項目</th> <th style="text-align: left;">水の種類</th> <th>(1)</th> <th>(2)</th> <th>(3)</th> <th>(4)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>懸濁物質の量</td> <td>(g/L)</td> <td>0.9</td> <td>0.5</td> <td>1.7</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>溶解性蒸発残留物の量</td> <td>(g/L)</td> <td>0.5</td> <td>1.3</td> <td>0.9</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>塩化物イオン(Cl⁻)量</td> <td>(mg/L)</td> <td>290</td> <td>220</td> <td>150</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	品質項目	水の種類	(1)	(2)	(3)	(4)	懸濁物質の量	(g/L)	0.9	0.5	1.7	1.3	溶解性蒸発残留物の量	(g/L)	0.5	1.3	0.9	1.7	塩化物イオン(Cl ⁻)量	(mg/L)	290	220	150	80
品質項目	水の種類	(1)	(2)	(3)	(4)																				
懸濁物質の量	(g/L)	0.9	0.5	1.7	1.3																				
溶解性蒸発残留物の量	(g/L)	0.5	1.3	0.9	1.7																				
塩化物イオン(Cl ⁻)量	(mg/L)	290	220	150	80																				

219 頁 (b) 運搬, 打込み ii) : 数値の誤り	
誤	正
<p>ii) コンクリート標準示方書では、打込み時のコンクリートの最大自由落下高さは5m以下を原則とし、最大水平流動距離は、平面的に広い範囲に打ち込む場合には8m以下、小断面で一方向に長い部材に片押しで打ち込む場合には5m以下を原則としている。</p>	<p>ii) コンクリート標準示方書では、打込み時のコンクリートの最大自由落下高さは5m以下を原則とし、最大水平流動距離は、平面的に広い範囲に打ち込む場合には8m以下、小断面で一方向に長い部材に片押しで打ち込む場合には 15m 以下を原則としている。</p>